

香川日独協会会報

Japanisch-Deutsche Gesellschaft

Kagawa



第21号

Juni 2016

目次

会報発刊を記念して

ご挨拶	香川日独協会会長	多田野 榮	2
祝辞	ドイツ連邦共和国総領事	インゴ・カールステン	3
祝辞	香川県知事	浜田 恵造	4
祝辞	高松市長	大西 秀人	5
祝辞	全国日独協会連合会会長	古森 重隆	6
祝辞	ボン独日協会会長	ザビーネ・ガンター・リヒター	8
寄稿	香川日独協会最高顧問	神余 隆博	9

会員投稿

1	丸亀ドイツ兵俘虜収容 100 周年を迎えて	丸亀市会員 篠原 勉	1 0
2	ブレーメンの高校生が持ち帰った思い出	私たちがもらった思い出 高松市会員 玉垣光何朗	1 1
3	丸はなぜ新しいのか	坂出市会員 綾井 泰徳	1 3

ドイツ便り

ボン独日協会創立 40 周年記念祝賀会に参加して

デュッセルドルフ在住	宮武 知世	1 4
------------	-------	-----

事業報告

1	ビアフェスト	香川日独協会事務局	1 6
2	かがわ国際フェスタ 2015	香川日独協会若者の会	1 7
3	オクトーバーフェスト	香川日独協会事務局	1 8
4	まちづくり講演会	理事 住谷 幸伸	2 9
5	Fastnacht ストーリー	香川日独協会若者の会	2 0
6	駐日ドイツ大使歓迎会	丸亀市会員 田村慶三	2 1
7	ベルリン独日協会との交流	香川日独協会若者の会	2 2

総会資料

1	総会・懇親会日程	2 3
2	2015年度 事業報告	2 4
3	2015年度 決算書	2 5
4	2016年度 事業計画	2 6
5	2016年度 予算書	2 7

※当会報の氏名各位においては、紙面の都合上敬称を略させていただきます。ご了承ください。



ご 挨 拶

香川日独協会 会長 多田野 榮

香川日独協会会報 21 号の発刊にあたり、皆様にご挨拶申し上げます。

平素は本協会の活動にご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

さて、私こと、昨年会長職をお引き受けいたしました、初の対外活動として 4 月 22 日・23 日に福岡で開催された全国日独協会連合会年次総会に出席いたしました。

熊本地震の直後にもかかわらず、全国から日独交流に熱い思いを持ったたくさんの同志が参加し、新たに、大分日独協会の加入と若者主体の日独ユースネットワークの設立が承認されるなど、充実した会議となりました。

また、5 月にはトリアで開催された全日独協会連合会年次総会にも参加しましたが、ドイツ全国から日独交流に思いをい多く大勢の方々とお会いしました。その後、20 年来の姉妹協会であるボン日独協会創立 40 周年記念祝賀会に参加し、節目の年をお祝いするとともに今後の交流について意見交換をしてみました。

その際、特にボン日独協会会長ガンター・リヒター氏とこれからの若い人たちとの日独親善交流促進の重要性について突っ込んだ意見交換もしてみました。

今後の香川日独協会の活動が、若い人たちも含め、さらに深まることを祈念いたします。

Zur Herausgabe des 21. Tätigkeitsberichts der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kagawa möchte ich Ihnen meine Grußworte aussprechen.

Zunächst einmal möchte ich mich herzlich bei allen Mitgliedern für Ihre stetige Unterstützung und Verständnis bedanken. Ich habe im letzten Jahr das Amt des Präsidenten angetreten. Als meine ersten auswärtigen Dienste habe ich an der Vollversammlung des Verbands der Japanisch-Deutschen Gesellschaften am 22. und 23. April 2016 in Fukuoka teilgenommen.

Trotz der Erdbebenkatastrophe unmittelbar vor diesem Termin sind zahlreiche gleichgesinnte Kollegen aus ganz Japan erschienen, die sich mit Leidenschaft mit dem Japanisch-Deutschen Austausch beschäftigen. Dort wurde die Aufnahme der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Oita sowie Japanisch-Deutschen Youth Network freigegeben. Die Versammlung ging erfolgreich zu Ende.

Im Mai habe ich an der Vollversammlung des Verbands der Deutsch-Japanischen Gesellschaften in Trier teilgenommen. Dort habe ich viele Kollegen aus ganz Deutschland getroffen, die sich um den Deutsch-Japanischen Austausch bemühen. Im Anschluss daran habe ich an der 40 jährigen Festveranstaltung der Deutsch-Japanischen Gesellschaft Bonn teilgenommen.

Neben der Übergabe unserer Grußbotschaft hatte ich die Gelegenheit, Meinungen auszutauschen.

Dabei habe ich mich mit der Präsidentin der Deutsch- Japanischen Gesellschaft Bonn, Frau Sabine Ganter-Richter über die Beförderung der Austauschprogramme der jüngeren Generation unterhalten und eingehende Meinungen ausgetauscht.

Ich hoffe, dass die Tätigkeit der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kagawa zur Vertiefung der regen Austauschaktivitäten zwischen Japan und Deutschland , insbesondere der jüngeren Generation in Kagawa beitragen.



**Grußwort von Generalkonsul Dr. Ingo Karsten
für die Zeitschrift der JDG Kagawa**

ご挨拶：香川日独協会会報によせて

ドイツ連邦共和国総領事 Dr. インゴ・カールステン

Die Deutsch-Japanische Freundschaft, die bereits über 150 Jahre besteht, ist ein Zeichen internationalen Friedens. Der Besuch der Bundeskanzlerin Merkel in diesem Mai zum Ise-Shima Summit unterstreicht die wichtige Zusammenarbeit zwischen Deutschland und Japan, denn gerade in diesem politisch ereignisreichen Jahr mit dem G7-Vorsitz Japans ist es wichtig, Solidarität und Zusammenhalt zu zeigen.

Innerhalb dieser langjährigen Zusammenarbeit sind die Japanisch-Deutschen Gesellschaften ein wichtiger und zuverlässiger Partner für das Generalkonsulat Osaka-Kobe zur Förderung und Intensivierung der deutsch-japanischen Beziehung. Die zahlreichen Aktivitäten der JDG Kagawa wie etwa die jährlichen Sommer- und Oktoberfeste und die Zusammenarbeit mit ihrer Partnergesellschaft in Bonn ermöglichen den interkulturellen Austausch zwischen unseren beiden Ländern.

In diesem Sinne möchte ich mich bei der JDG Kagawa für ihre langjährigen Bemühungen bedanken. Für das kommende Jahr wünsche ich gute Zusammenarbeit und viel Erfolg!

150年以上前から続く日独の友好関係は、国際平和の一つのシンボルです。今年5月には伊勢志摩サミットのためメルケル首相が来日し、日独両国の緊密な協力関係はさらに強化されることでしょう。日本が G7の議長国を務める今年はとりわけ政治課題が多いですが、まさにこのような時にこそ連帯と結束を示すことは重要です。

こうした長年の協力関係の中にあって、日独協会は、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館にとって、日独関係をさらに深めていくための信頼のおける大切なパートナーです。夏のビアフェストやオクトーバーフェストをはじめとする香川日独協会の数々の催しや、姉妹提携先のボン独日協会との協力関係などは、両国の異文化交流に多大な貢献を果たしています。

香川日独協会の長年にわたるご尽力に感謝申し上げ、今後も引き続き良好な協力関係を保てることを願うとともに、貴会のますますのご発展をお祈り申し上げます。



メッセージ

香川県知事 浜田 恵造

香川日独協会の皆様方には、日頃から、香川県の国際交流の推進に御尽力いただいております、厚くお礼を申し上げます。

平成3年の設立以来、講演会や音楽会など様々なイベントを通じて、香川県における日独交流の中心として活動してこられたことに対し、深く敬意を表します。

昨夏のビアフェストや、ドイツビールとともに讃岐コーチンや讃岐夢豚などの県産食材を使ったドイツ料理を楽しむオクトーバーフェストが、多くの来場者で賑わったことは記憶に新しいところです。このようなイベントを通じて、ドイツの文化に触れることで、ますます両国の絆が深まってくるものと確信しております。

今年は、瀬戸内海の12の島々などを舞台に開催される現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭2016」の開催の年にあたります。豊島ではドイツ人作家トビアス・レーベルガー氏の作品が展示されております。夏会期、秋会期でも鑑賞可能とのことですので、ぜひこの機会に足をお運びください。

結びに、貴協会のますますのご発展と、多田野会長様をはじめ会員の皆様方のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。

I would like to express my deep gratitude to the members of the Japan-German Society of Kagawa for their continued efforts in contributing to the internationalization of Kagawa Prefecture.

Since its establishment in 1991, I respect how the Society has initiated activities centered on cultural exchange between Germany and Japan through various events such as lectures and musical performances.

Memories of the beer fest and October harvest event last summer are still fresh in my mind, where many people showed up and enjoyed German beer and cuisine using local products such as Sanuki Cochin (chicken) and Sanuki Yume Pork. I am sure that these events help deepen people's understanding of German culture and further the friendship between our two countries.

This year, we are hosting the Setouchi Triennale 2016, which exhibits modern art exhibitions on the 12 islands afloat the Seto Inland Sea. A German artist called Tobias Rehberger is exhibiting his artwork on an island called Teshima. It will be viewable during the Summer and Autumn sessions during the Triennale, so please take this opportunity to come visit if you have the time.

In conclusion, I hope for the continued success of the Society, and for the good and health and happiness of Chairman Tadano and all the members.



メッセージ

高松市長 大西 秀人

香川日独協会におかれましては、１９９１年に日本とドイツの友好親善を深めることを目的として設立され、国内外の関係団体との交流を積極的に推進するほか、講演会やオクトーバーフェストなどの様々な行事の開催を通してドイツ文化を紹介し、ドイツに対する市民の理解を深めてこられました。これまでの長きに渡るドイツと日本との友好親善への多大な御貢献に、深く敬意を表しますとともに、本市の国際交流の推進に格別の御協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

さて、本市では、４月に「G7香川・高松情報通信大臣会合」が四国で初めて開催され、国内外から多くの関係者に御来高いただきました。また、本年は、高松港を始めとする、瀬戸内海の各地を舞台にした現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭２０１６」の開催年ございまして、瀬戸内海の多島美やアート・シティ高松としての本市の魅力を国内外に発信し、世界に開かれた都市を目指して、一層の文化・交流事業の推進に努めております。

このような中、貴協会の活発な交流活動は、誠に心強い限りであり、今後とも皆様方の更なる御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、香川日独協会の御発展、そして、会員皆様の御健勝・御活躍を心から祈念申しあげ、御挨拶いたします。

The Japan-German Society Kagawa (JDG Kagawa) was established in 1991 for the purpose of strengthening friendship and goodwill between Germany and Japan. Since then, the JDG Kagawa has helped deepen our citizens' understanding of Germany by not only actively promoting exchanges with organizations at home and abroad but also holding various events, such as lecture presentations and Oktoberfest. I would like to express my highest respect for the significant contributions to many years of friendship between Germany and Japan and my heartfelt gratitude to the outstanding support for promoting international exchanges in our city.

In April, the "G7 ICT Ministers' Meeting in Takamatsu, Kagawa" was held for the first time in Shikoku in this city, and many people came to Takamatsu from both inside and outside the country. This year, the "Setouchi Triennale 2016", a contemporary art festival, is also being held at the Port of Takamatsu and other locations in the Seto Inland Sea. With an aim to become a city that is open to the world, we have been working even harder to promote cultural and exchange programs while disseminating information throughout Japan and around the world about the beautiful island-studded Seto Inland Sea and this city's attraction as the Art City Takamatsu.

Under these circumstances, your society's vigorous exchange activities are truly encouraging, and I would appreciate your continued support.

Finally, I would like to offer my best wishes for the JDG Kagawa's further development and for all the members' good health and success.

Hideto Onishi, Mayor
City of Takamatsu



メッセージ

全国日独協会連合会会長 古森 重隆

本年も恒例の香川日独協会の会報誌発行の季節となりました。
今回は 第 21 号の発行とのこと、誠におめでとうございます。

さて、一昨年 10 月には、ボン日独協会との姉妹提携を結ばれてから 20 周年ということで、ボン日独協会の役員・会員 30 余名迎えて、記念式典を盛大に開催され、更に昨年は貴協会役員の改選で多田野榮氏が会長に就任されたことから、ボンとの絆はさらに強化されると共に、夏にはビアフェスト、秋にはフォルカー・シュタンツェル元大使をお迎えして盛大なオクトーバーフェストを開催、又、今春には「若者の会」主催の「春を呼ぶ会」、更にフォン・ヴェアテルン大使歓迎会など、多くの催し物を開催して日独交流に励んでおられるとのこと、四国のリーダーとしてのご活躍には感服致します。

ところで、昨年の私の祝辞では、全国日独協会連合会加盟団体の高齢化対策の一環として、ドイツ側連合会に加盟している「日独青少年協会」に対応する組織を立ち上げる準備が進んでいることをお知らせしましたが、先月の 4 月 22 日に博多に於いて開催された連合会年次総会に於いて、「日独ユースネットワーク」という名称の団体が、活動を再開する大分日独協会と共に、連合会加盟が承認されました。

この団体は、①これまで、とちぎ日独協会として 10 余年にわたり行ってきた「ハロー・プログラム」（日独の学生約 20 名を全国から募集し、隔年で 8 月下旬に相互訪問（昨年はドイツ⇒日本、本年は日本⇒ドイツ）して、時事問題他についての調査、意見交換を行い交流を図る事業。②10 年前にデア大使の発案で、連合会事務局が開催して来た「若手会員の集い」（連合会加盟協会の 45 才までの会員が年に一度集まって、若手育成に関する情報交換や意見交換を行う事業。）を行うと共に、③新たに、各地で催し物を開催して、若者の現地日独協会への入会を促進する。等を、目的としています。

香川日独協会には、若手の会員も多いとのことですので、是非ともこの「日独ユースネットワーク」の活動にご協力いただいて、この団体を盛り立てていただきますよう、お願い致します。

最後になりましたが、香川日独協会の更なるご隆盛と若手会員の皆さんの一層のご活躍を祈念致しまして会報誌 21 号発行のお祝いの言葉とさせていただきます。

Grußwort

Komori Shigetaka

Präsident des Verbandes der Japanisch-Deutschen Gesellschaften

Auch dieses Jahr ist es wieder an der Zeit, dass eine neue Ausgabe des Mitgliedsmagazins der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kagawa erscheint. Dazu möchte ich Ihnen auch dieses Mal wieder herzlich gratulieren.

Vorletztes Jahr im Oktober war es 20 Jahre her, seit Sie mit der Deutsch-Japanischen Gesellschaft Bonn eine Partnerschaft eingegangen sind. Anlässlich dieses Jubiläums kamen über 30 Vorstände und Mitglieder der DJG Bonn angereist und gemeinsam konnten Sie feierlich die Jubiläumsfestlichkeiten begehen. Seitdem Herr Sakae Tadano auf der Vorstandssitzung letztes Jahr zu Ihrem neuen Präsidenten gewählt wurde, ist die Beziehung zu Bonn noch enger geworden. Sie haben im Sommer ein Bierfest und im Herbst ein Oktoberfest (an dem auch der ehemalige deutsche Botschafter Herr Dr. Volker Stanzel teilnahm) veranstaltet, sowie eine von der „Jungen Gemeinschaft Kagawa“ veranstaltete „Fastnacht“ und zudem eine Willkommenszeremonie für den deutschen Botschafter Herrn Dr. Hans Carl von Werthern. Mit diesen und anderen Veranstaltungen haben Sie sich als Vorreiter der Shikoku-Region hervorgetan und damit meine größte Bewunderung.

Bei meinem Glückwunschs Schreiben im letzten Jahr erwähnte ich, dass die Bemühungen um die Gründung einer Organisation voranschreiten, welche als Gegenstück zur „Deutsch-Japanischen Jugendgesellschaft“ im deutschen Verband und als Maßnahme gegen die voranschreitende Überalterung der Mitgliedergesellschaften des Verbandes der Japanisch-Deutschen Gesellschaft fungieren soll. Diese wurde am 22. April auf der in Hakata veranstalteten Verbandstagung gegründet und zusammen mit der JDG Oita, welche Ihre Aktivitäten wieder aufnimmt, wurde die Aufnahme in den Verband bestätigt.

Diese Organisation wird ①. das über zehn Jahre hinweg durchgeführte „Hallo Programm“ weiterführen, bei dem 40 Studenten aus Japan und Deutschland teilnehmen, um Befragungen und Diskussionen zu aktuellen Themen durchführen und welches jedes Jahr Ende August veranstaltet wird (letztes Jahr in Deutschland, dieses Jahr in Japan). Außerdem wird sie ②. das „Treffen der Jungmitglieder“ fortsetzen, welches vor zehn Jahren von Botschafter Daerr ins Leben gerufen wurde und bei dem - veranstaltet vom Büro des VJDGs - einmal pro Jahr junge Mitglieder bis 45 Jahre zusammenkommen, um sich über die Jugendarbeit in den jeweiligen Gesellschaften auszutauschen. Weiterhin wird sie als neuen Ansatz ③. in den Regionen Veranstaltungen durchführen, um neue junge Mitglieder für die jeweiligen JDGen zu gewinnen.

Da es in der JDG Kagawa viele junge Mitglieder gibt, würde ich mich freuen, wenn Sie an den Aktivitäten des Japanisch-Deutschen Jugendnetzwerkes mitwirken und diese Organisation unterstützen.

Ich wünsche Ihnen auch in Zukunft viel Erfolg für alle Ihre Vorhaben und die Aktivitäten der jugendlichen Mitglieder. An dieser Stelle möchte ich Ihnen noch einmal meine herzlichsten Glückwünsche zur Herausgabe der 21. Ausgabe Ihres Mitgliedsmagazins aussprechen.



Liebe Mitglieder der JDG Kagawa

ボン独日協会会長 ザビーネ・ガンター・リヒター
Sabine Ganter-Richter

1. Vorsitzende der DJG Bonn e.V.

die DJG Bonn feiert in diesem Jahr ihren 40. Geburtstag - ganz frisch sind noch die Erinnerungen an die Feier am 10. Mai 2016 in Bonn! Wir haben uns ganz besonders gefreut, dass unter der Leitung des Präsidenten der JDG Kagawa, Herrn Tadano, auch eine Delegation aus Japan nach Bonn gekommen ist und wir gemeinsam feiern konnten.

Doch wie das deutsche Sprichwort sagt: „erst die Arbeit, dann das Vergnügen“, haben sich die Vorstände der JDG Kagawa und der DJG Bonn am Vormittag zu einem Arbeitsgespräch in den Bonner Rheinauen getroffen. Wir haben vereinbart, dass wir in Zukunft unsere Zusammenarbeit intensivieren und insbesondere den Jugendaustausch fördern wollen. Nach diesem Treffen führte Frau Mönch die Gäste durch den japanischen Garten, ein wunderschönes Geschenk der japanischen Regierung an die Stadt Bonn anlässlich der Bundesgartenschau 1979.

Am Nachmittag empfing uns der Oberbürgermeister der Stadt Bonn, Herr Sridharan, im historischen Alten Rathaus am Markt. Auch der Generalkonsul aus Düsseldorf, Herr Mizuuchi, gratulierte bei dieser Gelegenheit der DJG Bonn zu ihrem Jubiläum. Anschließend ging es weiter zu einer Führung durch das Stadtmuseum, bevor wir mit der Fähre über den Rhein zum Abendessen in einem typisch rheinischen Lokal gefahren sind.

Es war ein sehr schöner Tag und wir freuen uns schon heute auf viele weitere Begegnungen mit Ihnen – in Japan oder in Deutschland!

御蔭様で独日協会ボンは今年40歳の誕生日を迎えました。そして2016年5月10日の祝賀会は、まだ鮮明に私共の記憶に残っております。わけても多田野会長率いる香川日独協会代表団をボンにお迎えしてご一緒にお祝い出来ました事は私共の喜びです。

ドイツにはこういう諺があります「仕事が先で、楽しみは後だ」。この諺の通り香川日独協会役員の皆様と当協会役員は祝賀会の当日午前中にラインアウエに於いてお互いの意見交換を行いました。そして、将来共同の仕事はお互いより一層集中して行う事で意見の一致を見、取り分け青年交流を促進する事でも合意致しました。そして、会談の後は高松よりのお客様を1979年に連邦庭園祭がボンで開催された際日本政府から贈られた、真に美しい日本庭園へ御連れしてメンヒ夫人の説明により観賞致しました。

午後は、マルクト広場の歴史的ボン旧市庁舎ゴブランルームに於いてスリダランボン市長の歓迎を受けました。また、デュッセルドルフからお越し頂きました水内総領事より当協会記念祝賀に際し祝いのお言葉を頂きました。その後は説明案内付きで私立博物館を回り、フェリーにてライン川を渡り典型的ライン地方郷土料理店へ参りました。

とても素晴らしい一日でした。私共はこれからも高松の皆様との日本での、そしてドイツでの数多い『出会い』を今から心待ちに致しております。



日独共通の責任とはなにか

関西学院大学副学長、ベルリン日独センター総裁

香川日独協会最高顧問 神余 隆博

EUの中で欧州を牽引していく国は今後ドイツであることは間違いない。そのドイツは、EUの大国であるのだが、なぜ自信をもってリーダーシップをとれないのか。21世紀においてドイツが存在感のある国として存続していくためには、欧州における政治的・経済的な責任をどこまで担うことができるか、難民問題やユーロ危機による欧州の分裂を回避し、統合を進めていくことができるのか、「ドイツの欧州」ではなく「欧州のドイツ」路線をどこまで貫徹しきるのが重要な鍵となる。それは同時に欧州のためにどこまでドイツが政治的・経済的な負担をすることができるかでもあり、答えは簡単ではない。ドイツ再統一とユーロの導入でユートピアを達成したドイツは、いま目指すべき次なる目標が何なのか迷っているようにも見える。

21世紀における日独共通の責任は、自らの国力を減退させずに世界の平和と繁栄に貢献できるかである。数十年後にはもはや大国ではないが、一流の国として世界に存在し続けることについての未来戦略を描けるか否かである。他方、ドイツも日本も目先の危機への対応に追われて、古い考え方と対処法から抜け切れず、将来への発想転換ができていないように思える。当面の危機が一段落すればそれが慢心（complacency）となって、次の危機のスパイラルを生み出すかも知れない。

出生率の低下による人口減少と高齢化の進行により、日独はともに衰退が始まっている。このままでは今後数十年のうちに両国の人口と経済規模は縮小し、ミドルパワーに転落しかねない。しかし、発想と経済戦略を変えることによって再び成長は可能になり、衰退を防ぐことができるかも知れない。

経済成長の根幹となるのは、消費と企業の設備投資等の資本ストックの動向である。人口減少社会ではこれまでのような大量消費型経済の再来は困難であり、別の形での商品やサービスの提供が必要である。医療や介護、環境、エネルギー分野においてこれまでとは全く異なった消費社会が作れないか智恵を出す必要がある。また、企業の設備投資を増やすには資本収益率を上げる必要がある。そのためには、イノベーションが必要である。

昨今、モノのインターネット革命（IOT）といわれるドイツ発の第4次産業革命（インダストリー4.0）が日本でも話題となっている。日本も人口知能（AI）で次なる産業革命を引き起こしたいと考えている。人口と国力の減退を逆手にとって資本収益率を上げるようなイノベーションを起こすことができれば、日独の成長は再び可能であり、衰退は防げるものと信じる。

日本とドイツは自由、人権、民主主義、法の支配という普遍的な価値観を共有するとともに、安定勢力として世界に貢献する責任と役割を担っている。今月26-27日に日本の議長の下にG7サミットが伊勢志摩で開かれる。山積する諸課題の解決に向けて日独の連携が発揮されることが期待される。日独の世界的な責任が今ほど求められる時代はない。（2016年5月20日記）

丸亀ドイツ兵俘虜収容100周年を迎えて

丸亀市会員 篠原 勉

1914（大正3）年11月16日、ドイツ兵俘虜が丸亀市塩屋町の本願寺塩屋別院に中国の青島から多度津港をへて収容されました。その俘虜たちが上陸した多度津港には、ドイツ語で歓迎の挨拶“Herzlichst und mitleidvollst willkommen”「心から、同情をこめて歓迎します」の垂れ幕が掲げられていたそうです。

丸亀ドイツ兵俘虜楽団の足跡を辿る会では、このようにして迎え入れられた俘虜たちが収容されて、ちょうど100年後の2014年11月16日（日）に現存する収容所「本願寺塩屋別院」において記念行事「2014 ドイツ兵俘虜収容所 in 丸亀」を開催しました。

第一次世界大戦時に丸亀の本願寺塩屋別院で俘虜として2年余りを過ごし、板東収容所へ送られるまでの収容所生活の再現をテーマにして、当時のドイツ兵俘虜の収容所生活を現存する写真を基に再現してみました。

- 【1】記念講演会（演題：丸亀俘虜収容所石井彌四郎所長とドイツ兵俘虜）
- 【2】収容所での活動を再現（滑稽芝居、組立体操）
- 【3】再現演奏会（日本最初の「第九」演奏に多大な影響を与えたであろうと思われる丸亀ドイツ兵俘虜の音楽活動を再現）
- ①マンドリン楽団、②男性合唱団（「第九」初演の時、丸亀の二つの合唱団が「合唱」を担当し、特に第7中隊の後備伍長であるJ. コッホは、ソロのバスパートを担当したと言われています。）、③エンゲルオーケストラ
- 【4】そのほか、丸亀市土器町にある収容中に病死したドイツ兵俘虜（アマンドゥス・テンメ）の墓参、俘虜収容所展、ドイツ国紹介などを行いました。

その後、丸亀俘虜収容所のドイツ兵たちは、徳島の板東俘虜収容所へ送られ、そこでも音楽活動が盛んになり、ドイツ兵俘虜により日本最初の「第九」を演奏しています。この丸亀ドイツ兵俘虜楽団の音楽活動は、中国の青島から始まり、丸亀での活発な音楽活動、徳島の板東収容所で集大成として、ドイツ兵俘虜による日本における第九初演につながっています。

迎る会では、このような歴史的背景をとおして、平成 20 年
 から毎年、「丸亀ドイツ兵俘虜楽団の足跡を辿る音楽フェスト」
 を開催しているものです。

この音楽フェストは、「ビールとドイツ音楽の夕べ（8月26日（金）丸亀市民ひろば）」から始まり、続けて丸亀ドイツ兵俘虜楽団ゆかりの地で「2016 まるがめ第九プレコンサート（12月11日（日）本願寺塩屋別院）」、そして「2016 まるがめ第九演奏会（12月19日（日）丸亀市民会館）」へつながっていきます。

今年の音楽フェストも、皆様に刺激を与え喜ばれる行事を計画していますので、皆様お誘い合わせのうえ、ご来場いただきたいと思います。



ブレーメンの高校生が持ち帰った思い出 私たちがもらった思い出

高松市会員 玉垣光伺朗

2014年10月末の1週間、ドイツ、ブレーメン市より3名のギムナジウムの生徒が、体験入学生として当時私が勤務していた高校に訪れた。日本側生徒(以下、生徒)はもちろん、私にとっても貴重な交流体験であったので、私が関わったささやかな日独交流の模様を当時の記憶をたどりながらご紹介したい。

今回訪れたのは、ギムナジウム生3名と引率の野島悦子先生で、3名は野島先生担当の日本語の授業を受けている生徒(内、1名はOG)である。実はこの内1名はアジア系、1名はアフリカ系のルーツを持つ生徒で、多文化・多民族化の進む近年のドイツの状況を反映していると言える。私は地理を担当しているので、地理の受講生がドイツからの体験入学生と授業の中で交流できる機会を是非持ちたいと考えていた。お互いにどんなことを知りたいと考えているのか、質問を出し合いそれに答え合う形での授業を考えていた。どのように準備をすればよいか考えていた8月、偶然にも日本に一時帰郷されていた野島先生とお会いする機会があった。幸いこのプランにご賛同くださり、帰独したらその授業に向けて準備を進めていこうと話がまとまった。

計画としては、事前に双方が質問したい事柄を考えて、私と野島先生がメールに載せて交換し、質問に対する答を生徒と共に準備、それを10月の本番の授業で発表しあうというものであった。日本語を習っ



交流授業の様子(右の3人がギムナジウム生)

てきたドイツ人生徒は日本語で、英語を習ってきた日本人生徒は英語でやろうではないかと、ハードルを少々(いやかなり…)高くしてしまった。こちらは20名ほどの2年生、私もドイツに関心がある者として、いろいろな話を生徒にしなが、ドイツの文化や生活について生徒と一緒に質問をまとめていき、ブレーメンに送ることができた。やがてブレーメンからも質問が届いた。その質問を読んでいたいへん驚いた。「ドイツの若者は政治に関心があります。例えばデモに参加したりします。日本の若者も政治に高い関心がありますか」「政治に関して常時定期的に情報

収集していますか。もしそうならその情報源はどこからですか。公的それとも民間のTVあるいは新聞、それともインターネットから？」といった質問が並んでいたのである。生徒もちろん驚き、どんな答を返せばいいのか困っていた。話には聞いていたが、これはなかなか手強いぞと…。硬派の質問があった一方で、日常の学校生活についての質問もいただいた。

ギムナジウム生を交えての授業は3回行った。2回は質問と回答を行う「交流授業」で、あとの1回は通常の地理の授業である。授業ではちょうど世界の気候についての単元で「ケッペンの気候区分」を学習していた。「西岸海洋性気候(Cfb)」や「サバナ気候(Aw)」といった気候区名や記号が登場する、地理ではおなじみの単元である。生徒に配るプリントの中の語句を和独辞典で調べて、ドイツ語で書き加えたプリントを作成した。実はケッペン Köppen(1846-1940)はドイツ人で、気候区分の表記(CfbやAwなど)はドイツ語の語句が元になってつくられている。例えばCfbのfbは feucht(湿潤な)の頭文字である。授業では日独両生徒に発問しながら気候区の説明をしたり、気候表の中からデータを読み取ったりする作業と一緒にいった。ケッペンの気候区分の授業をケッペンのルーツであるドイツの生徒と行うというのは、私にとっては感慨深いものであったが、ギムナジウム生は Köppen を知らないと言っていた(え、知らないの?)。

さて、質問と回答の交流授業である。授業には野島先生も参加してくださっていたので、自由なやりとりは、野島先生の通訳に頼っていた。あらかじめ生徒にはドイツ側からの質問を割り当てて、答を考えて英



部活動訪問（漫画研究部）

語で書いてくるよう宿題を出していた。前述の気候の授業のこともあったので、気候に関する質問をこちらから出したが、ギムナジウム生からのプレーメンの高緯度ゆえに夏涼しい気候や冬の寒さについての説明に、生徒は驚いていた。生の「証言」は何よりありがたい。そして後半になって政治意識についての質問の番になった。生徒は日本の若者が政治に関心がないということを何とか英語で伝えたが、これはドイツからの生徒を満足させる回答ではなかったようだ。また私

の力不足と時間不足で、日独の若者の政治への関心の違いの背景について掘り下げるまでには至らなかった。生徒の方としては（関心が）ない理由を説明することはできないということであろう。日独の生徒達には、日本の国政選挙では20歳代の投票率が高齢者に比べて低いこと、投票率が低いと若者向けの政策が十分に打ち出されないおそれがあると説明した。おりしも今年の6月より日本では選挙権年齢の18歳への引き下げが行われ、7月には参議院選挙もある。ドイツの若者の高い政治意識に刺激された（であろう）生徒たち（今年19歳）は、選挙に行ってくれるだろうか。

3人のギムナジウム生は、地理の授業以外にももちろん他の多くの授業を受けていた。それぞれ1・2年生のいずれかのクラスに入って、生徒達と机を並べていたのである。幸い3人ともクラスの中でうちとけ、5日間であったが楽しい毎日を過ごすことができた。それだけでなく、クラスの生徒に交代でお弁当を作ってもらったり、担任教諭から家に眠っていたお下りの学生服をもらったり（もらってから学校に毎日着てきたのはもちろん、帰独後にギムナジウムにそれを着て行き注目の的になったらしい）、またクラスメイトと放課後に回転寿司に行ったりということもあったようである。3人はもったいなかったと言ってドイツに帰ったそうであるが、彼らが帰った後、運動場には写真のような「メッセージ」が残されていた。

彼らが帰ってからもしばしばメールのやりとりを行っているが、今回の体験についても感想を送ってくれた。その中で、「授業の最初と最後にお辞儀をしている」

「1日の始めに担任の先生によるホームルームや5分間の読書の時間がある」「授業はほとんど全くとおしゃべりがなく、減多に質問も出ない」「毎日授業の後、全員で大がかりな掃除がある」などと、日本独自の学校文化に驚いた様子であった。後日お聞きした話だが、授業の始まりと終わりの挨拶は、野島先生がギムナジウムの日本語の授業で「お願いします」「ありがとうございます」の発声と共に毎時間行っていたそうである。その授業では受講生お気に入りの動作だったとのこと。実際に行われている場面に自分たちも参加して感動していたようだ。この他、陶芸や漫画研究、剣道、バスケットボールなどいく



3人が残してくれた運動場メッセージ

つかの部活動を見学したが、このような活動が提供されていることが「うらやましく」感じたこととあった。そして体験入学を終えてドイツに帰ってからも、彼らは共に過ごした「クラスメート」たちとも交流が続いているとのことである。これからこの頼もしい3人には、日本のことを思い出したり「意識」しながら、そしてつながりながら、ドイツで活躍してほしいと願っている。そして日本に再び訪れる日が来たら、ぜひビールを飲みながら語り明かしたいものである。

ところで昨年、今度は現在の勤務校にドイツのスポーツ少年団一行が交流に訪れた。学校に1日滞在して部活動を見学（運動部はもちろん、書道部員とは「Kalligrafie」を楽しんだ）したり、一緒に英語で意見交換をしたりした。このようにたくさんのドイツの若者が日本に関心を持ってきて、地方都市にも立ち寄り交流の機会を楽しんでくれるのは本当に嬉しくありがたいことである。私もドイツファンの1人として、ドイツに日本ファンを増やして交流の幅を広げていきたいと思っている。

九はなぜ新しいのか

坂出市会員 綾井泰徳

表題を見て冗談ではないかと思われた方もおられるかもしれないが、これは冗談ではなく真面目な話である。

ドイツ語で「九」は *neun*、「新しい」は *neu* である。似ている。私が学習したもう一つのヨーロッパの言葉であるスペイン語でも「九」は *nueve*、「新しい」は男性名詞単数につく時 *nuevo* である。似ている。

実は、インド・ヨーロッパ語族の多くの言葉で、「九」と「新しい」は似ているのだ。

ドイツ語の学習をされた方には、理由を説明するのは割合と簡単である。現在のドイツ語で性と格の変化のある数詞はない。強いて言うなら不定冠詞の *ein*（男性名詞単数主格、中性名詞単数主格・対格の時）、*eine*（女性名詞単数主格・対格の時）といったようなものくらいであろうか。それがかつてインド・ヨーロッパ語には性と格の変化のある数詞は一から四までだったのである。

ちなみに、

ドイツ語の名詞には性の区別がある。男性名詞、女性名詞、そして男性でも女性でもない中性名詞である。

また、ドイツ語の名詞には格がある。格とは、てにをは に近い。四つの格があり、主格（1格、～は）属格（2格、～の）与格（3格、～に）対格（4格、～を）である。それぞれの格と、てにをは の対応は一応の目安である。

これに両数という考え方が加わる。両数というのは、ものが二つ、人が二人の時の形である。かつて、インド・ヨーロッパ語には、単数、両数、複数の区別があった。

四の両数は八である。つまり、八で一つながりの数が終わり、九から新しく始まるという考え方があったのだ。「九」 *neun* と「新しい」 *neu* が似ているのは偶然ではなかったのである。

この話には種本がある。

風間喜代三『ことばの生活誌ーインド・ヨーロッパ文化の原像へー』平凡社 1987

風間喜代三『ことばの身体誌ーインド・ヨーロッパ文化の原像へ***ー』平凡社 1990

の二冊である。比較言語学に興味を持たれた方は、図書館等で探して、読んでみられたらいいかかと思えます。

ボン独日協会創立 40 周年記念祝賀会に参加して

デュッセルドルフ在住 宮武知世

独日協会ボンの創立 40 周年に際し、お祝いを申し上げます。長い歩みを経て、このような記念すべき年を迎えられましたこと、そして、香川日独協会とも姉妹関係になって 20 年という節目を迎えられましたことに対して、敬意を表します。また、このような記念すべき年に自分が運よくドイツに滞在していたことをうれしく思うと同時に、香川日独協会多田野会長からの繋がりです。今回の記念祝賀会にご招待いただきまして、感謝いたします。



祝賀会には多くの方々が出席され、交流の時間を楽しみつつ、これまでの独日協会の歩みについて、そしてこれからの独日協会の未来についてお話しされていました。私もそこで参加者の方々とお話しさせていただきました。また、祝賀会の後の美術館（Stadtmuseum）の見学では、興味深いボンの歴史を知りました。これらのことは 4 か月目を迎える私のドイツ生活において大きな刺激となりました。

ここで、私が現在ドイツに滞在するようになった経緯について、少しお話しさせていただきます。私はもともとヘルマン・ヘッセをはじめとしたドイツ文学に興味があり、大学でドイツ語を専攻しました。しかし、一昨年の夏、大学時代の友人と一緒にドイツを旅行した際、自分のドイツ語力のなさにショックを受けました。その後「ドイツで生活をしてドイツ語を思い出して、話せるようになりたい。」と考えるようになり、ワーキングホリデー制度を利用してドイツに行くことを決意しました。そして昨年 12 月に日本で仕事を退職、今年 1 月に渡航し、現在に至ります。

実際ドイツに住んでみて思ったのは、「旅行と生活は違う」ということです。ドイツに到着してから今まで、たくさんの人に出会い、たくさんの経験をしました。私が



今住んでいるデュッセルドルフという街は、多くの日系企業のヨーロッパ拠点でもあることから、日本人が大変多いのですが、それでもやはりここはドイツ。文化や習慣はもちろんドイツのそれです。今でもたびたびカルチャーショックを受けています。一番驚いたのが、ドイツの郵便には、荷物の宅配先の家が留守の場合、ご近所の家に預

けるシステムがあるということです。先日、私宛の荷物が向かいの家に預けられていたので、取りに行きました。ドイツではご近所さんに会ったら挨拶はもちろん、世間話をするのもしばしばです。日本よりもご近所の人に対する信頼が厚いように思いました。

「ドイツは各都市によって違った特色を持っている」これは、ドイツの旅行ガイド本やインターネット等によく書かれていることです。私も今までたくさんのドイツの都市に行きましたが、その通りだと感じます。ベルリン、フランクフルト、ハンブルク、ミュンヘン、ケルン、シュトゥットガルトそして今回ご招待いただいたボン。それぞれが全く違う街です。一つ共通していることは、人々の温かさだと思います。一昨年の旅行でも、普段の日常でも、そして今回の祝賀会においても、それを実感しました。

これからのドイツと日本との交流の発展を祈願しつつ、その一端を担えるよう、私も日々のドイツでの生活を頑張っていきたいと思っています。

ビアフェスト

香川日独協会事務局

8月23日日曜日 18時より 56名の皆様のご参加で、「暑さを吹き飛ばせ！キリリと冷えたビール（レーベンプロイ）で乾杯！」が賑やかに開催されました。会場は高松市丸亀町のグリル&ワイン レガーロ、特別にお願いをしましたソーセージやポテト、野菜等のドイツ料理がずらりと並べられ、ドイツビールやワインも特別仕立、飛ぶように皆様の喉と胃袋に収まって行きました。

まずは多田野会長のご挨拶に始まって、大坂副会長の乾杯、またご参加の皆様の内、ノルトラインヴェストファーレン州からのドイツ研修生 7名様も加わって、楽しい交流の場となりました。またアトラクションはピアノと歌で、会場を盛り上げてくれました。向井副会長の閉会の辞で楽しくお開きになりました。



かがわ国際フェスタ2015

香川日独協会若者の会

高橋 圭輔

2015年10月12日にアイパル香川にて開催された「かがわ国際フェスタ2015」に参加しました。



かがわ国際フェスタは今回で21回目を数える香川県の国際交流の祭典です。国際交流や国際協力、多文化共生に県民が理解を深める事を目的として香川県国際交流協会が企画をするイベントで、本イベントにも40近くの国際交流に関係する組織・団体が参加しました。

香川日独協会 若者の会は若者の会が発足した2007年よりかがわ国際フェスタへ参加しており、今年で9回目の参加となります。

今年は、香川日独協会 若者の会の活動実績を載せたポスター掲示の他に、ハーブティ、ポストカード、エコバックの物販、そして、ドイツ菓子の名店LÖWE様のご協力のもと、本イベント限定で特別にドイツの焼き菓子、バウムクーヘン、レープクーヘン、シュトーレン、の3種類をお作りいただき、販売しました。

2015年の夏頃、かがわ国際フェスタの参加のための初回の打ち合わせを開催しました。その後月に1回程度の打ち合わせを行い、展示物や物販品の詳細を決定しました。開催2週間前頃からは、物販品の買出しや梱包作業などを若者の会のメンバーで分担し行い、当日を迎えました。

開催日は、8時頃にアイパル香川へ集合し、会場の設営、掲示物の設置、物販品の展示等を行いました。10時に開会式が執り行われ、その後、浜田知事と国際交流協会の理事長でもある多田野日独協会会長が会場視察に来られました。

香川日独協会 若者の会のブースには終始たくさんのお客様がお越し頂きました。香川日独協会の会員の皆様もお越し頂き、大盛況となり、開始1時間前の15時には物販品も無事に完売する事ができました。また、掲示物を見ながらドイツの文化について様々な方とお話をする事ができました。

今年で若者の会のかがわ国際フェスタへの参加は9回目を迎える事ができました。これまでの活動を振り返ると、様々な催しを国際交流フェスタで行っており、とても感慨深く思います。2016年も是非、かがわ国際フェスタへ参加し日本とドイツの交流の場の機会となる事を祈っております。そして、若者の会で共に活動をして頂ける仲間がより一層増えます事を願っております。



最後に、かがわ国際フェスタ参加にあたり、ご協力を頂きました、LÖWE様、香川日独協会 特別会員 中村様、香川日独協会 事務局の皆様がこの場をお借りして深く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

追記

これまでの若者の会の国際フェスタでの様子は、下記ホームページに掲載しておりますので、是非ご覧下さい。

香川日独協会 若者の会 HP <http://jgk.jdg-kagawa.org>

香川日独協会 若者の会 FACEBOOK ページ <https://www.facebook.com/jgkagawa/>

オクトバーフェスト

前駐日ドイツ大使フォルカー・シュタンツェル氏出版記念祝賀会

香川日独協会事務局

10月31日土曜日19時より、63名のご参加で、オクトバーフェストが開催されました。今回は前駐日大使フォルカー・シュタンツェル様著の「ドイツ大使も納得した、日本が世界で愛される理由」の出版記念会を兼ねまして、前大使にお越し頂き著作本のサイン会も行われました。氏のウィットに富んだ内容の本、及び知的でにこやかな物腰に会員一同、すっかり魅了されました。

また当日は在ドイツ連邦共和国特命全権大使中根 猛様もご多忙の中ご臨席賜り、ドイツの日本の架け橋になられている旨のご挨拶を頂きました。お二方のお越しで大いに盛り上がり、また一緒に写真を撮らせて頂く会員も多く、和やかな一時となりました。ご多忙の中、お越しいただきましたフォルカー・シュタンツェル前大使、中根大使にあらためまして御礼を申し上げる次第です。



まちづくり講演会

<< ドイツに学べ!! スポーツの力でまちづくり >>

理事 住谷 幸伸

まちづくり
講演会ドイツに学べ!!
スポーツの力でまちづくり

日時

2015年11月5日
18時30分～20時

場所

香川大学幸町キャンパス南3号館
1階 第2講義室

講師

ドイツスポーツユース 日本支部



ヘルムート・ラング氏



ディーター・ハウ氏

だれでも参加
できます。

申込方法

講演会は無料です。申し込みは、香川大学幸町キャンパス南3号館1階第2講義室まで、お電話またはメールでお申し込みください。

お問い合わせ先
香川大学幸町キャンパス南3号館1階第2講義室
電話：087-821-1111（内線2111）
メール：machi@kaiyodai.ac.jp申込先
香川大学幸町キャンパス南3号館1階第2講義室

参加費

無料

主催

香川大学幸町キャンパス

後援

香川大学幸町キャンパス

公益財団法人香川県体育協会

高松市

高松市体育協会

香川大学大学院・地域

マネジメント研究科

2015年11月5日、香川大学においてドイツスポーツユース（ドイツのスポーツ少年団）で日本部会役員を務める、ヘルムート・ラング氏、ディーター・ハウ氏の2名の講師を招き講演会を実施しました。テーマは「ドイツに学べ!! スポーツの力でまちづくり」で、ドイツにおいてまちづくりにスポーツがどのように関わっているか詳しくお話をいただきました。

ドイツではスポーツが地域コミュニティの核として位置付けられており、約90,000の地域スポーツクラブが存在します。会員数は約2,700万人で、国民の3人に1人が入会しています。地域スポーツクラブは住まいから身近な場所に設置されており、会員はクラブハウスを

活動拠点として活動しています。また、体育館やグラウンドを保有しているクラブが多く、地域の住民によって運営されています。ドイツには部活動はなく、子どもは学校が終わると自分の町の地域スポーツクラブで活動します。大人も仕事が終わると地域スポーツクラブで活動します。スポーツクラブは幼児から高齢者まで地域住民が集う場所になっていて、生涯スポーツの拠点となっています。ドイツで地域スポーツクラブはスポーツをする場所だけでなく、まちづくりの中枢になっているといえます。

当日は当会会員である香川大学の山田香織氏とノイマン・フローリアン氏に通訳としてご協力をいただきました。参加者は53名で講義室は満員となり、補助席で対応しました。講演会の終了後、講師を交えて歓迎交流会も行われ、楽しい会話が弾みました。

この場を借りて講演会の開催にあたり、後援をいただきました香川県教育委員会、公益財団法人香川県体育協会、高松市、高松市体育協会、香川大学大学院・地域マネジメント研究科の皆様にお礼を申し上げます。



Fastnacht ストーリー (若者の会奮闘記)

香川日独協会若者の会

乃村 敏行

今年ファストナハトの内容を企画し準備した若者の会の苦心は仮装に尽きた。それはいかにあの不気味な雰囲気を出すか、であった。特に仮装のお面の鼻の立体感、やはりあの存在感を放つ鼻を立体にしなければならない。しかしそれは容易なことではないのではないか、との暗雲が晴れぬまま平成28年2月20日の当日を迎えた。衣装はいろいろと準備したものの成功の鍵はお面担当たる高橋圭輔さんのクラフトマンシップに委ねられていた。

夕闇迫る冬の午後。森山雅子さんが黒い森のさくらんぼケーキを私がドイツ風揚げパンを手配し、ホテルの会場も食事も整った。私はどこか慢心があり、ろくに練習できていないギター演奏を安請け合ひし、結果的に当日の朝まで準備に追われた。「まあ、アンプのリバーブ（残響効果）を強めに効かせればそれなりにムーディーな演奏をできるだろう」との皮算用もないわけではなかった。



19時の開会時間に合わせて、若者の会による仮装集団が40数名の香川日独協会会員の前を行進した。皆さん、少しきょとんとしたような目で、しかしその視線は確かにお面の立体的な鼻に存分に注がれていた（ように思う）。これは高橋君を中心に若者の会のメンバーが開会の直前まで集まって工作作業にあたったその賜物であった。開会、多田野会長のご挨拶に続き乾杯があり、その後、石田フローリアン理事からファストナハトについての解説があった。女性が男性のネクタイをハサミでカットする風習もあり、祭りの中にも政治と

いうか、権力という世俗的な要素が含まれているところが面白い伝統行事である。

余興として披露したギター演奏。プレイにミスは少なかった。しかし、アンプのエフェクトを強くかけ過ぎ、音の輪郭がぼやけた。弾きながら、これはリバーブがこつてりと効き過ぎてはいないかとの感覚があった。次回（があればだが）道具に頼らずに、ただシンプルに良いギタープレイを試みたい、そんな反省の残響が耳にこだまする夜だった。

というわけで、私自身は揚げパンの手配と余興の準備とで手一杯で、実は当日のイベント最中の記憶が薄い。しかし、どうであろう、なにか満足げな表情を浮かべた仮装集団の写真の様子は。これだけで私は、ああ、うまく行って良かったな、心からそう思う。



駐日ドイツ大使歓迎会

丸亀市会員 田村慶三

平成 28 年 4 月 12 日火曜日、ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン駐日ドイツ大使夫妻が、G7 情報通信会合で参加者が訪れる予定の直島を視察されました。それを機会に、香川日独協会は大使夫妻の歓迎会を J R ホテルクレメント高松で 18 時 30 分から開催しました。

ヴェアテルン大使は、ご挨拶の中で「大臣会合の大成功を願っています。香川は美しく、直島の人たちは大変友好的でした。初めての訪問でしたが、また香川県を訪れたいと思います」と香川に好印象を持たれたことを話されました。

大使はたくさんの参加者と親しく歓談されました。筆者も香川とドイツの歴史的な結びつきとして、100 年前の第一次世界大戦期に丸亀にドイツ人俘虜の収容所が設置され、300 名余りのドイツ人将兵が 2 年 5 か月にわたって生活し、丸亀の住民との間で交流があったことを当時の写真をお見せしながら説明してもらいました。大使は興味をもって話を聞いてくださいました。板東俘虜収容所のことはご存知でしたが、丸亀で収容されていた俘虜が、その後に板東に移ったこととお話しすると、「ああ、そういうことだったのですね。」と納得していただけました。大使に香川とドイツとの歴史的つながりを覚えていただければ、大変うれしく思います。



ベルリン独日協会との交流会

香川日独協会若者の会

共著 引地 桃子、高橋 圭輔、伊藤 考晃

平成28年4月15日（金）～4月16日（土）ベルリン独日協会より15名の旅行団が香川県に訪れました。

事前に旅行団のことを知らされた若者の会は、楽しい時間を過ごしてもらうためにどうすれば良いかを話合いました。移動手段や時間等は予め決まっていたましたが、香川県をもっと好きになって貰うお手伝いができたと思います。

この記事では、琴平で行った懇親会と同行した栗林公園観光について報告します。

【4月15日（金）ベルリン独日協会との交流会 琴平懇親会】



旅行団の皆様は、お昼前に香川県へ到着しました。金比羅山を参拝後、宿泊先の琴参閣近くの骨付き鳥のお店田中屋にて若者の会主催の懇親会を行いました。懇親会に参加したのは、旅行団の15名と若者の会を含めた香川日独協会14名の総勢29名です。

ベルリンから訪れた旅行団の方と様々な会話を楽しみ交流を深めました。会の終わりに、若者の会より旅行団の皆様へ香川県に訪れた記念のお

土産として「善通寺のご朱印」と「折り紙の兜」をお送りしました。皆様心から喜ばれていた様子で、終始笑顔の絶えない素晴らしい懇親会となりました。

【4月16日（土）ベルリン独日協会との交流会 栗林公園観光】

旅行団の皆様とは、ことடன்栗林公園駅で合流しました。栗林公園観光に参加したのは、旅行団の15名と若者の会を含めた香川日独協会17名の総勢32名で、自己紹介や前日の懇親会の話しながら栗林公園まで歩きました。

当日は快晴で、新緑がとても綺麗な園内を、3つのグループに分かれて散策しました。見どころが本当に沢山あるので自由に散策したいという方もいて、旅行団の皆様は思い思いの方法で日本庭園を満喫されていました。園内を一通り散策した後、お昼には芝生広場の大きな楠木の下に座ってお弁当を食べました。



最後の集合写真撮影では旅行団の皆様が、この旅の記録を残したいと、ご自身のカメラや携帯を手渡してくれて、本当に楽しんで頂けたのだと思いました。

最後になりましたが、今回、香川県を訪問された旅行団の皆様へ感謝を申し上げますとともに、こういった機会を与えて下さり、ご協力頂きました多くの皆様にもこの場をお借りして御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

総会・懇親会 日程

2016 年 6 月 5 日（日）JR ホテルクレメント高松

総会

1. 開会（18：00～18：40）
2. 会長挨拶
3. 議案審議
 - 1 号議案 2015 年度事業報告承認の件
 - 2 号議案 2015 年度収支決算書承認の件・監査報告
 - 3 号議案 2016 年度事業計画（案）承認の件
 - 4 号議案 2016 年度予算（案）承認の件
 - 5 号議案 役員の承認の件
 - 6 号議案 日独ユースネットワークの件
 - 7 号議案 その他
4. 報告事項
5. 閉会（18：40）

懇親会

1. 開会（18：50～20：30）
2. 会長挨拶
3. 乾杯
4. 祝辞 香川県知事 浜田恵造 様
5. 祝辞 高松市長 大西秀人 様
6. アトラクション
7. 閉会

総 括

2015 年 4 月~2016 年 3 月

会議

2015 年 6 月 28 日	第一回理事会
2015 年 8 月 23 日	第二回理事会・臨時総会
2015 年 10 月 31 日	第三回理事会
2016 年 3 月 8 日	第四回理事会

主催行事

2015 年 5 月 24 日	定期総会・講演会・レセプション
2015 年 8 月 23 日	ビアフェスト
2015 年 10 月 31 日	オクトーバーフェスト
2015 年 11 月 5 日	まちづくり講演会
2016 年 2 月 20 日	春を呼ぶ会

その他行事

2015 年 5 月 28~31 日	日独共同制作コンテンポラリーダンス公演 『空、流れる風… .』(後援)
2015 年 8 月 28 日	ビールとドイツ音楽の夕べ(丸亀)(後援)
2015 年 10 月 2 日	ドイツ統一記念レセプション
2015 年 10 月 12 日	香川国際フェスタ 2015
2015 年 11 月 8 日	香川第九演奏会(後援)
2015 年 12 月 20 日	丸亀第九演奏会(後援)

2015年度香川日独協会収支決算書(2015年4月～2016年3月) 単位:円

※一部2016年4月実施分含む

科 目	本年度予算	本年度実績	予実差額 (実績-予算)	備考
I 収入の部				
1会費収入	492,000	594,000	102,000	147名
個人会員	264,000	363,000	99,000	121名
夫婦会員	105,000	105,000	0	21組
学生会員	0	0	0	0名
協賛会員	120,000	120,000	0	5社
来年度前受金(H26年度分)	3,000	0	-3,000	
過年度分(H23,H24年度分)	0	6,000	6,000	
2事業収入	1,250,000	1,359,200	109,200	
総会(懇親会)	420,000	272,000	-148,000	2015年5月24日実施
ゾマーフェスト(ドイツピアフェスト)	200,000	223,000	23,000	2015年8月23日
オクトーバーフェスト	200,000	382,200	182,200	2015年10月31日
クリスマスイベント	0	0	0	
FASTNACHT(春を呼ぶ会に代え実施)	200,000	164,000	-36,000	2016年2月20日
ドイツ訪日団歓迎会	200,000	0	-200,000	
全国日独協会連合会年次総会	0	0	0	
姉妹提携20周年記念事業	0	0	0	
ドイツ大使受入れ	0	287,000	287,000	2016年4月12日
ベルリンミッション受入れ	0	31,000	31,000	2016年4月15日、16日
シュタムティッシュ(若者の会)	30,000	0	-30,000	実施せず
3奨励金(県国際交流協会)	-	0	0	
4助成金	0	0	0	
20周年記念事業助成金(高松市)	0	0	0	
20周年記念事業助成金(香川県)	0	0	0	
全国日独協会連合会	0	0	0	
5雑収入(利息)	782	363	-419	
ゆうちょ銀行	630	139	-491	
百十四銀行	46	108	62	
香川銀行	106	116	10	
寄付金	0	0	0	
6預かり金	0	3,000	3000	年会費過徴収返却分
当期収入合計(A)	1,742,782	1,956,563	213,781	
前期繰越収支差額(B)	2,637,025	2,637,025	0	
当期収入合計(A+B)	4,379,807	4,593,588	213,781	
II 支出の部				
1事業費	1,530,000	1,977,730	447,730	
総会(懇親会)	450,000	417,240	-32,760	
ゾマーフェスト(ドイツピアフェスト)	180,000	289,300	109,300	
オクトーバーフェスト	250,000	430,012	180,012	
クリスマスイベント	50,000	0	-50,000	
FASTNACHT(春を呼ぶ会に代え実施)	200,000	234,894	34,894	
日独交流歓迎事業	100,000	0	-100,000	
全国日独協会連合会年次総会参加費	60,000	0	-60,000	
全国日独協会連合会年会費	20,000	20,000	0	
姉妹提携20周年記念事業	0	0	0	
シュタムティッシュ(若者の会)	50,000	0	-50,000	
会報発行費	150,000	135,000	-15,000	
理事会	20,000	8,000	-12,000	ドイツ人理事会費招待費用
日独交流150周年記念事業	0	0	0	
ドイツ大使受入れ	0	364,776	364,776	
ベルリンミッション受入れ	0	78,508	78,508	
2予備費(創立20周年、日独交流150周年)	0	0	0	
3事務管理費	145,000	312,334	167,334	
通信費	120,000	289,230	169,230	
事務消耗品費	20,000	3,872	-16,128	
若者の会事務費補助	0	13,350	13,350	
手数料(会費振込料他)	5,000	290	-4,710	
渉外費	0	5,592	5,592	
4義援金	0	0	0	
5奨学金	50,000	40,000	-10,000	5名想定(1万円/人)
当期支出合計(C)	1,725,000	2,330,064	605,064	
当期収支差額(A)-(C)	17,782	-373,501	-391,283	
次期繰越収支差額(A+B)-(C)	2,654,807	2,263,524	-391,283	

総会資料

2016 年度事業計画

1. 駐日ドイツ大使歓迎会 (2016 年 4 月 12 日 済)
2. ベルリン旅行団来県受け入れ(2016 年 4 月 済)
3. 全国日独協会連合会年次総会(2016 年 4 月 22・23 日 済)
4. ボン独日協会 40 周年訪問(2016 年 5 月 10 日 済)
5. 総会
6. ビアフェスト
7. オクトーバーフェスト
8. クリスマス会
9. 春を呼ぶ会
10. 日独ユースネットワーク事業
11. 日独交流関連事業

2016年度香川日独協会予算案(2016年4月～2017年3月)

単位:円

科 目	本年度予算	昨年度実績	予算差額 (予算-昨年)	備考
I 収入の部				
1 会費収入	660,000	594,000	66,000	161名(社・組)
個人会員	390,000	363,000	27,000	130名
夫婦会員	110,000	105,000	5,000	22組
学生会員	10,000	0	10,000	10名
協賛会員	150,000	120,000	30,000	8社
来年度受け金(2016年度分)	0	0	0	
前年度分(2015年度分)	0	6,000	-6,000	
2 事業収入	1,355,000	1,359,200	-4,200	
総会(懇親会)	300,000	272,000	28,000	
ゾマーフェスト(ドイツビアフェスト)	223,000	223,000	0	
オクトーバーフェスト	382,000	382,200	-200	
クリスマスイベント	0	0	0	
FASTNACHT(春を呼ぶ会に代え実施)	200,000	164,000	36,000	
ドイツ訪日団歓迎会	200,000	0	200,000	
全国日独協会連合会年次総会	0	0	0	
姉妹提携20周年記念事業	0	0	0	
ドイツ大使受入れ	0	287,000	-287,000	
ベルリンミッション受入れ	0	31,000	-31,000	
全国若者の会()	0	0	0	
シュタムティッシュ(若者の会)	50,000	0	50,000	
3 奨励金(県国際交流協会)	-	0	0	
4 助成金	0	0	0	
全国日独協会連合会	0	0	0	
5 雑収入(利息)	363	363	-	
ゆうちょ銀行	139	139	0	
百十四銀行	108	108	0	
香川銀行	116	116	0	
寄付金	0	0	0	
6 預り金	0	3,000	-3,000	
当期収入合計(A)	2,015,363	1,956,563	58,800	
前期繰越収支差額(B)	2,263,524	2,637,025	-373,501	
当期収入合計(A+B)	4,278,887	4,593,588	-314,701	
II 支出の部				
1 事業費	1,840,000	1,977,730	-137,730	
総会(懇親会)	450,000	417,240	32,760	
ゾマーフェスト(ドイツビアフェスト)	250,000	289,300	-39,300	
オクトーバーフェスト	400,000	430,012	-30,012	
クリスマスイベント	50,000	0	50,000	
FASTNACHT(春を呼ぶ会に代え実施)	200,000	234,894	-34,894	若者の会主催予定
ドイツ訪日団歓迎会	100,000	0	100,000	
全国日独協会連合会年次総会参加費	50,000	0	50,000	福岡1名(会長出席)
全国日独協会連合会年会費	20,000	20,000	0	会費
シュタムティッシュ(若者の会)	100,000	0	100,000	若者の会の活性化
全国若者の会(日独ユースネットワーク)	50,000	0	50,000	2016年度発足予定
ドイツ大使受入れ	0	364,776	-364,776	
ベルリンミッション受入れ	0	78,508	-78,508	
会報発行費	150,000	135,000	15,000	
理事会	20,000	8,000	12,000	ドイツ人理事招待費用
2 予備費(創立20周年、日独交流150周年)	0	0	0	
3 事務管理費	205,000	312,334	-107,334	
通信費	150,000	289,230	-139,230	
事務消耗品費	20,000	3,872	16,128	
若者の会事務費補助	20,000	13,350	6,650	
手数料(会費振込料他)	5,000	290	4,710	
渉外費	10,000	5,592	4,408	
4 義援金	0	0	0	
5 奨学金	50,000	40,000	10,000	
当期支出合計(C)	2,095,000	2,330,064	-235,064	
当期収支差額(A)-(C)	-79,637	-373,501	293,864	
次期繰越収支差額(A+B)-(C)	2,183,887	2,263,524	-79,637	

香川日独協会会報 第21号

2016年6月発行

発行：香川日独協会事務局

Japanisch-Deutsche Gesellschaft KAGAWA

〒760-0060 香川県高松市末広町 7-21

(株) アムロン総務部気付

Tel : 087-851-1570

Mail : info@jdg-kagawa.org

発行責任者：多田野 榮（会長）

編集：田村 慶三（会報編集委員長）

印刷：(有)ファスト・プリント テクニカ

表表紙 ベルリン独日協会旅行団と栗林公園を散策